



中期経営計画 「革進・実行 2010」

(2008年4月1日～2011年3月31日)

基本方針

- ① 選択と集中で経営体質を変える
選択と集中、利益・価値創造を重視
- ② 組織と運営の改革
真のグローバル企業をめざす
安全・安心、CSRの推進
- ③ 財務体質の強化
資産効率を重視

基本戦略

- ① 選択と集中
強い既存事業への経営資源の注力
既存事業の高収益構造への変換
- ② コアビジネスの強化
世界で負けないコスト競争力を獲得
顧客視点の価値を創造する新製品開発
原料確保のためのサプライチェーンを構築
販売力／マーケティング力を強める
- ③ 海外展開の加速
不二の強みで世界の成長市場を狙う
- ④ アライアンスの推進
既存事業の再構築、新事業の創出の手段に活用

進化 1

改革の継続と発展軌道への
加速の「進化する3ヵ年」

STEP 2

2011 ▶ 2013

2014 ▶ 2017

革進・実行 2010

「変革」と「前進」を実行する
「経営構造改革の3ヵ年」

STEP 1

2008 ▶ 2010

10年計画

進化 2

ビジョンの実現に向けての
「飛翔の4ヵ年」

STEP 3

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当社グループへ格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第82期の中間期における事業の概況をご報告するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、輸出などに持ち直しの動きが見られたものの、雇用や所得環境は一段と厳しさを増しており、引き続き厳しい状況で推移しました。

当社グループを取り巻く食品業界では、消費者の節約志向がさらに強まり、低価格・ボリューム感などが重視されるようになり、企業の価格対応力が一段と求められました。

このような状況のなか、当社グループは、中期経営計画「革進・実行 2010」を着実に実行し、「技術経営」の推進、顧客ニーズに即した製品開発、他社にない高機能素材の提供、生産コストの削減に加えて、重要課題である「海外事業の拡大」と「大豆たん白事業の再生」に積極的に取り組んでまいりました。これらの結果、当中間期は売上高は過去最高となった前年同期を下回りましたが、利益面では過去最高となりました。

内外の諸情勢から今後とも厳しい事業環境が予測されますが、引き続き中期経営計画「革進・実行 2010」を推進し、経営構造改革に取り組んでまいります。特に企業の社会的責任を十分に認識し、お客様へのさらなる貢献を果たすべく、新製品の開発、提案営業活動の強化を図ってまいります。また、新規に海外事業の展開と拡大を加速してまいります。

通期の業績見通しにつきましては、連結売上高2,156億円（前期比9.9%減）、連結営業利益150億円（同30.1%増）、連結経常利益141億円（同36.8%増）、連結当期純利益90億円（同20.2%増）を予定しております。

なお、当中間期の配当につきましては、前期期末配当と同様、1株につき9円とさせていただきます。中間配当を含めた年間配当は1株当たり18円とさせていただきます予定です。

全てのステークホルダーの皆様から信頼を獲得し、期待に応えることができるよう企業価値の向上に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
海老原 善隆

新興国への進出や付加価値製品による新市場の創出を図り、さらなる拡大に努めます。

—海外各地域の現況をお願いします。

中国では大豆たん白事業の改革により収益性が改善しています。他のアジア諸国では、油脂事業の採算性向上、機能性油脂などのスペシャリティファットの拡販により計画を上回る進捗です。米国では機能性油脂などの加工油脂が好調に推移し、チョコレート用油脂も堅調です。欧州、ロシアでは、経済不況の影響でチョコレート用油脂の販売数量は伸び悩みましたが、徐々に需要は回復してきています。これらの結果、第82期においても、海外営業利益は、過去最高を更新する見込みです。

—事業方針をお聞かせください。

海外事業本部として、中期経営計画「革進・実行 2010」における最重要課題は「海外事業の拡大と新規事業展開の加速」であると認識しています。その課題に対し、事業別の取り組みをご紹介します。

○ 油脂事業

■ 機能性油脂の拡大

油脂事業の施策のポイントは、①チョコレート用油脂の拡販 ②加工油脂の拡大、海外新拠点の検討と実施 ③サプライチェーンマネジメントの強化 の3点です。
チョコレート用油脂は、機能面、コスト面での優位性を訴求することで、新規顧客を開拓し、拡販につなげてまいります。
2点目の加工油脂は、機能性油脂に加え健康油脂などの差別化製品を拡販していきます。
特に成長著しいBRICSやVISTA諸国での拡販を推進し、新たな製造拠点につながるよう検討していきます。
3点目のサプライチェーンマネジメントの強

不二製油株式会社

- 吉林不二蛋白有限公司
- 不二富吉(北京)科技有限公司
- 天津不二蛋白有限公司
- 山東龍藤不二食品有限公司
- フジオイルヨーロッパ
- 不二製油(張家港)有限公司
- 上海旭洋緑色食品有限公司
- 深圳旭洋緑色食品有限公司
- ハルマジュ エディブル オイル
- フジオイル(シンガポール)
- ウッドランド サニーフーズ
- フジ サニーフーズ
- フレイアバディ インドタマ
- ニューレイテ エディブル オイル

化については、原料の安定確保という視点からも川上事業を強化してまいります。原料産地に近いシンガポールに購買拠点を構え、パーム油購買を集約化します。生産体制についても、マレーシアに原料立地に見合った製品群を集約し、川上に近い製品群の競争力強化を図ってまいります。

○ 製菓・製パン素材事業

■ チョコレート事業の新市場開拓

主要施策は、①チョコレート、クリーム事業の世界戦略の展開 ②アライアンスの成果実現 です。
海外のチョコレート事業は、現在 インドネシア、中国、ベルギーの子会社で生産し、事業展開を行っています。新興国の需要拡大に合わせ確実に伸長すると考えており、さらなる市場開拓に取り組んでいきます。
クリーム事業は、シンガポールで生産し、東南アジアを中心に拡販しています。当期から中国への輸出を本格的に開始しており、これまでの中国製品にない美味しさと機能性が評価されています。
2点目のアライアンスについては、昨年資本提携した正義油脂グループとの成果が現れてきています。台湾では共同で取り組む機能性マーガリンが市場に浸透し始めています。中国では正義油脂グループ各社へ

の取引が拡大しています。マーガリンの拡販についても共同で積極的に推進しています。新興国を中心に新たなアライアンスの実現に向け、検討していきたいと考えます。

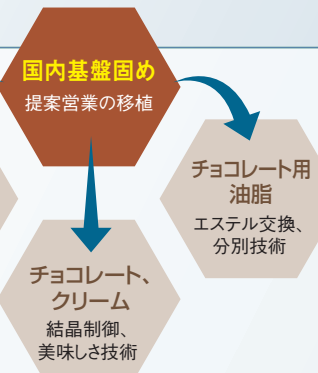
○ 大豆たん白事業

■ 中国での事業の強化・拡大

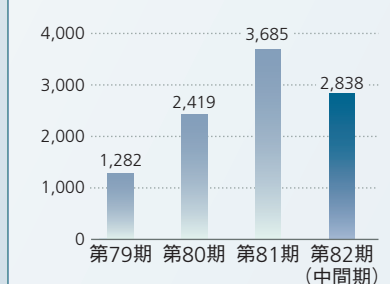
主要施策は、①中国での大豆たん白事業の強化、拡大 ②水溶性大豆多糖類の海外展開の加速 です。
中国では事業の再構築により収益性は向上していますが、強化、拡大のために技術力、開発力を活かした高付加価値製品の拡販と原料購買の見直しなどコスト競争力の向上を図っていきます。
2点目の水溶性大豆多糖類は酸性乳飲料向けが堅調に推移しています。さらなる拡大を図るため新規顧客の開拓、新市場での展開を加速していく所存です。

コアビジネスによる世界戦略

- 海外ビジネス2倍増
- 売上／利益で 海外>国内
- 健康と美味しさ素材の世界No.1メーカー



海外営業利益の推移(百万円)



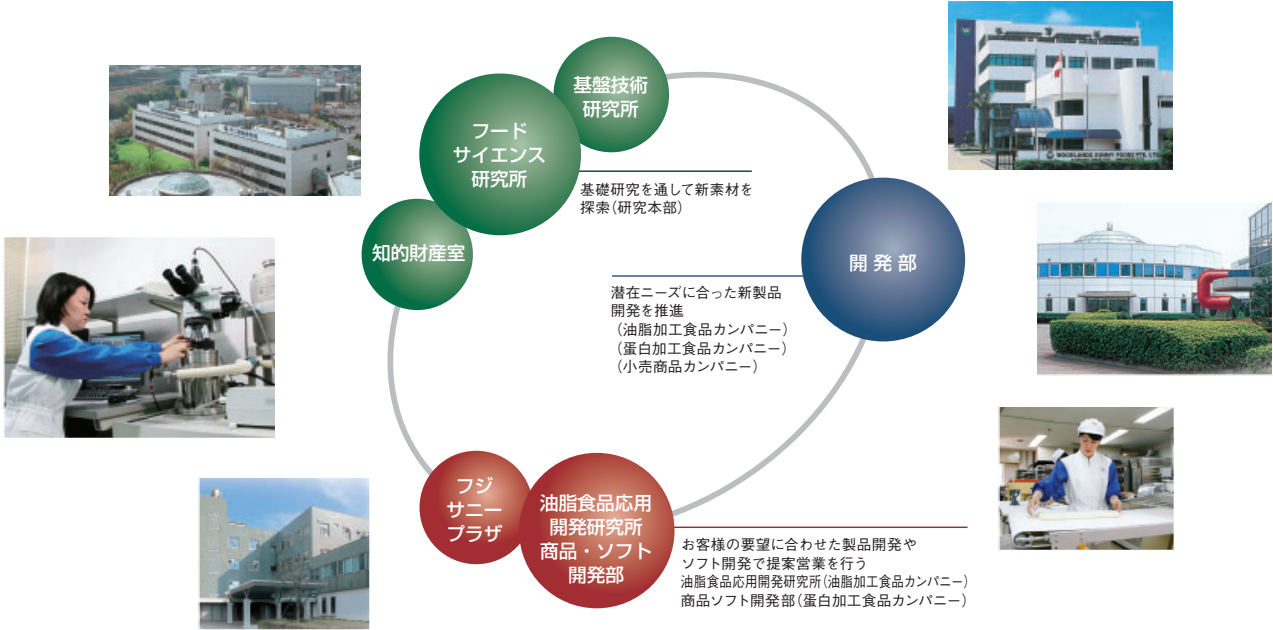
代表取締役副社長
海外事業本部長 河部 博国

新製品開発・新生産技術開発に注力するのは創立以来の企 業風土と伝統

領域は基礎研究から新製品・新生産技術の開発まで
一どのような研究開発体制をとっていますか。

当社グループの研究開発の体制は「フードサイエンス研究所」「開発部」「商品・ソフト開発部」の3部門で構成しています。フードサイエンス研究所は、①現在の事業におけるコア技術を深掘り研究し事業の強化を図ること、②新事業および新事業領域を創出することを主な目的として研究活動しており、領域は油脂・たん白・糖質・バイオ・健康機能の各関連分野です。研究期間が比較的長い基礎研究が特徴です。施設のほとんどは「つくば研究開発センター」にあり、大学や外部研究機関との共同研究を積極的に推進、また、研究員の短期留学も実施しています。

開発部は油脂加工食品・たん白加工食品・小売商品の各カンパニー組織に属し、新製品の開発を手がけています。加えて基盤技術の向上・強化も重要な役割であり、新技術の開発や食品加工メーカーとの共同開発も行います。商品・ソフト開発部は、独自のビジネスモデルを実践している部門で、洋菓子・パン・焼き菓子・冷菓・食肉製品・水産練り製品など、分野は多岐に亘っています。例えば洋菓子だと、市場の売れ筋や世の中の動きを分析し、トレンド予測を行い、それに基づいて新しい洋菓子や洋菓子原料素材の開発を行います。そしてお客様（洋菓子店・洋菓子メーカー）に対し、売り方も含めた提案をします。この提案営業を行う場所が「フジサニープラザ」です。1980年に最初の「阪南プラザ」を開設、現在はシンガポール、上海にも設置し、不二製油ならではの提案営業を行っております。



研究開発3部門の連携が当社グループの強み
―研究開発の各部門における連携内容をお聞かせください。

フードサイエンス研究所で作り上げた技術を各カンパニーの開発部（商品・ソフト開発部）で実用化することも多く、両部門の連携は毎日のように進められています。これらの連携機能は当社グループの強みであり、スタッフ個人の力を組織の力に膨らませる原動力となっています。各部門のスタッフは定期的なローテーションを組み、様々な立場で経験を積んでいます。中には一つの部門に特化し、専門家の道を歩むスタッフもいます。また、開発部や商品・ソフト開発部は、海外グループ会社との連携も図っており、技術の海外展開や海外戦略商品の開発に携わっています。

食品分野における特許出願数は常に高位を推移
―知的財産の重要性はますます高まっていますが…。

1950年の創立以来、2009年当中間期までに特許出願および特許権取得の累積件数は、国内外を合わせ、それぞれ4,129件と1,893件。食品分野における不二製油の特許出願公開ランキングは、常に高位を推移しています。知的財産に関連した表彰も多く、2009年4月には「知財功労賞／経済産業大臣表彰・特許活用優良企業」、「大阪府発明功績者」(社員)を受賞いたしました。知財功労賞の大臣表彰は、業界では初めてのことです。知的財産の管理は、知的創造の促進と、知的財産の保護および活用を図ることを目標に、不二製油グループ全体の発展に努めています。また、知的財産部門は、他部門とも密接に連携しています。特許情報に関するデータベースの構築と提供、開発素材だけではなく用途も特許出願して提案営業をバックアップ。また、アイデアコンテスト(毎年)や特許ポートフォリオ行事(隔年)などの催し、貢献発明表彰(4年に1回)、教育・研修、研究者への奨励金制度にも関わっています。

特許権という知的財産は、独自技術を背景に高いシェア獲得のベースになるものです。とくに海外戦略を推進する上でキープポイントとなり、さらに高いレベルでの運用・管理をめざしていきたいと思えます。

■ 不二製油グループの特許出願・特許権取得累積件数 (1950年～2009年9月)

	国内	海外	合計
特許等出願件数	2,487件	1,642件	4,129件
特許等を受けた件数	993件	900件	1,893件

※若干の実用新案・意匠の出願・登録件数を含んでいます。
※国内の特許出願件数は、油脂や油脂食品の関係と、蛋白乃至大豆製品の関係がほぼ半々です。

■ 食品分野における不二製油の特許出願ランキング (特許庁行政年次報告から)

1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
1位	1位	2位	4位	1位	1位	2位	1位	3位	2位

※2006年まで特許庁は「食料品」分野の件数で集計。
2007年から特許庁は「食品化学」分野の件数で集計。



取締役 研究本部長
小林 誠

平成22年3月期連結「**上期業績**」と「**通期見通し**」

連結決算 上期（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

消費者の節約志向がさらに強まり、低価格・ボリューム感などが重視されるようになり、企業の価格対応力が一段と求められました。当社グループは、中期経営計画「革進・実行 2010」を着実に実行し、「技術経営」の推進、顧客ニーズに即した製品開発、他社にない高機能素材の提供、生産コストの削減に加えて、重要課題である「海外事業の拡大」、「大豆たん白事業の再生」に積極的に取り組み、成果を上げてまいりました。

油脂事業

- ◆国内では、チョコレート用油脂などのスペシャリティ製品やバーム油などが堅調に推移したものの、原料相場の影響による販売価格の下落や業務用缶詰市場での苦戦などにより、前年同期に比べ減収、減益となりました。
- ◆海外グループ会社は、景気低迷の影響が一部に見られましたが、アジアを中心に精製部門の採算改善が大きく業績に貢献しました。

製菓・製パン
素材事業

- ◆国内では、業務用チョコレートが好調に推移し、販売量を伸ばすなど業績に寄与しました。
- ◆クリーム類、マーガリン・ショートニング類、フィリング類は、機能を訴求した製品が業績に貢献しました。
- ◆国内子会社のデザート類は、小売向けの不振に加え、新型インフルエンザの影響などもあり、厳しい状況が続きました。
- ◆海外では、原料相場の影響などにより減収となりましたが、日本向け調製品販売が堅調に推移し、利益は前年を上回りました。

大豆たん白事業

- ◆大豆たん白素材は、国内は発酵培地用途や惣菜向けに加え、健康食品向けが伸び、増収、増益となりました。
- ◆大豆たん白食品は、厳しい市場環境により減収となりましたが、コスト削減に加え原材料産地にこだわった製品作りが好評だったことなどにより、利益は改善しました。
- ◆大豆ペプチドは、発酵培地用途や輸出が順調に推移し、業績が改善しました。
- ◆水溶性大豆多糖類は、国内外で酸性乳飲料用途向けが堅調だったことや米飯市場への展開もあり、大幅な増収、増益となりました。
- ◆豆乳・通販は、コスト削減努力を続けた結果、利益面は改善しました。

(単位:億円)

	平成22年3月期 上期 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)			平成22年3月期 通期 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)		
	平成22年3月期 上期	ご参考		平成22年3月期 通期	ご参考	
		対前年同期 平成20年4月 1日～ 平成20年9月30日	対前年同期増減率		対前期 平成20年4月 1日～ 平成21年3月31日	対前期増減率
売 上 高	1,023	△138	△11.9%	2,156	△237	△9.9%
営 業 利 益	79	+30	+62.5%	150	+34	+30.1%
経 常 利 益	74	+30	+67.1%	141	+37	+36.8%
純 利 益	47	+17	+59.6%	90	+15	+20.2%

(注)記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

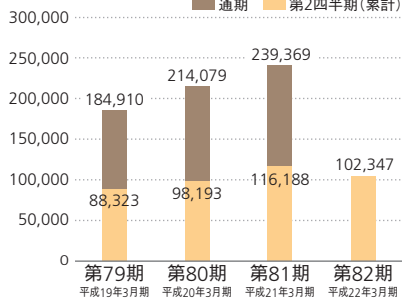
平成22年3月期 下期の重点取り組み

- 海外事業展開の加速
- 大豆たん白再生プランの完遂
- 新市場展開
- コストダウンの取り組み
- 提案営業の強化

将来見通しに関する注意事項

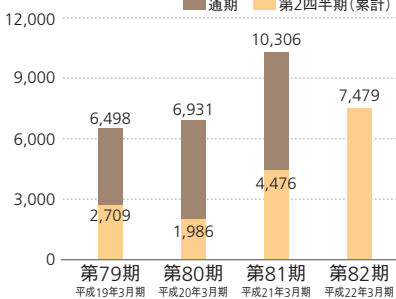
上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

売上高 (百万円)



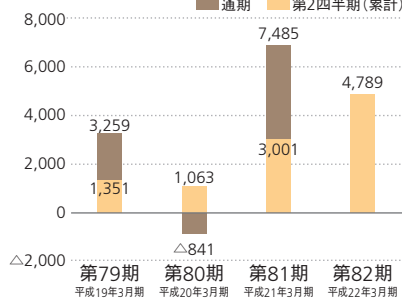
原料相場の影響により減収となりました。

経常利益 (百万円)

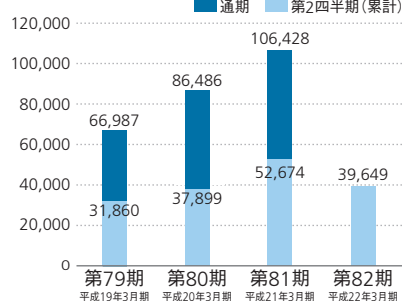


「技術経営」の推進、「大豆たん白再生プラン」の進捗により、増益となりました。

四半期(当期)純利益 (百万円)

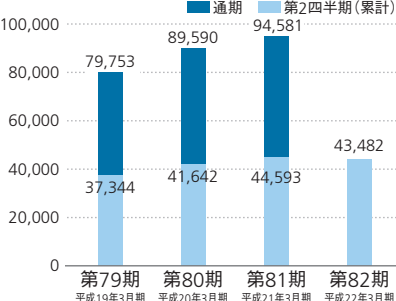


経常利益の増益により増益となりました。

事業別売上高 (百万円)
(油脂事業)

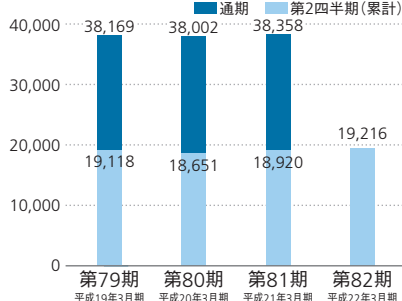
原料相場の影響により減収となりました。

(製菓・製パン素材事業)



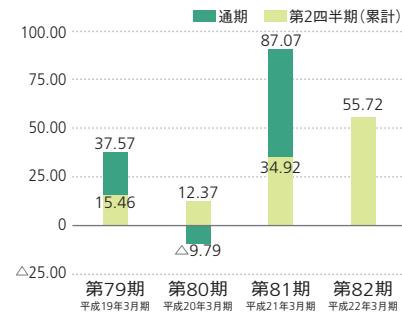
業務用チョコレートが販売量を伸ばしたものの、原料相場の影響により減収となりました。

(大豆たん白事業)



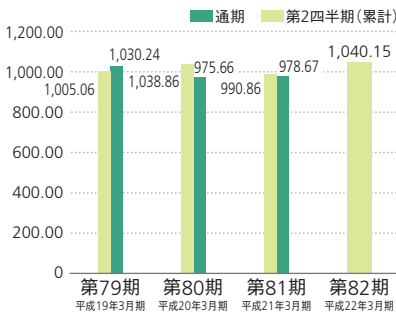
大豆たん白素材、水溶性大豆多糖類が売上を伸ばしました。

1株当たり四半期(当期)純利益 (円)



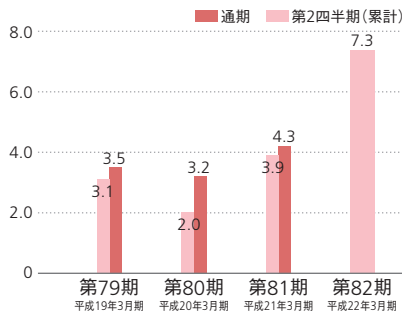
四半期純利益の増益により増加しました。

1株当たり純資産額 (円)



利益剰余金の増加により増加しました。

売上高経常利益率 (%)



経常利益の増益により上昇しました。

四半期連結貸借対照表

科 目	当第2四半期末 平成21年9月30日現在	前期末 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	79,127	78,555
現金及び預金	5,024	4,753
受取手形及び売掛金	40,490	38,236
たな卸資産	30,862	32,590
繰延税金資産	1,119	868
その他	1,808	2,278
貸倒引当金	△177	△172
固定資産	94,785	93,512
有形固定資産	82,988	82,805
建物及び構築物(純額)	31,825	31,545
機械装置及び運搬具(純額)	33,323	29,577
土地	15,526	15,502
建設仮勘定	871	4,825
その他(純額)	1,441	1,355
無形固定資産	1,664	1,141
投資その他の資産	10,132	9,564
投資有価証券	8,011	7,118
繰延税金資産	79	344
その他	2,316	2,362
貸倒引当金	△274	△260
繰延資産	15	19
資産合計	173,928	172,087

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期末 平成21年9月30日現在	前期末 平成21年3月31日現在
負債の部		
流動負債	58,471	52,093
支払手形及び買掛金	14,424	15,866
1 短期借入金	22,280	23,509
1 コマーシャル・ペーパー	—	1,000
1 1年内償還予定の社債	10,020	20
1 1年内返済予定の長期借入金	1,589	1,324
未払法人税等	2,179	2,829
賞与引当金	1,672	1,521
その他	6,305	6,021
固定負債	21,928	32,193
1 社債	90	10,100
1 長期借入金	19,239	19,887
繰延税金負債	812	637
退職給付引当金	1,272	1,073
役員退職慰労引当金	374	370
その他	139	125
負債合計	80,400	84,286
純資産の部		
株主資本	93,563	89,547
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	18,324	18,324
利益剰余金	63,775	59,759
自己株式	△1,744	△1,744
評価・換算差額等	△4,150	△5,419
其他有価証券評価差額金	1,117	708
繰延ヘッジ損益	△209	152
為替換算調整勘定	△5,058	△6,279
少数株主持分	4,115	3,672
純資産合計	93,528	87,801
負債純資産合計	173,928	172,087

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期(累計) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
2 売上高	102,347	116,188
売上原価	80,549	96,826
売上総利益	21,798	19,361
販売費及び一般管理費	13,894	14,496
2 営業利益	7,904	4,865
営業外収益	241	530
営業外費用	666	919
2 経常利益	7,479	4,476
特別損失	239	72
税金等調整前四半期純利益	7,239	4,404
法人税、住民税及び事業税	2,071	1,476
法人税等調整額	130	△150
法人税等合計	2,201	1,325
少数株主利益	248	77
2 四半期純利益	4,789	3,001

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

本報告書は四半期決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後に公表される可能性がある訂正情報、業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては金融庁EDINETや当社ホームページの掲載資料にてご確認ください。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期(累計) 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	8,273	△2,058
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,601	△2,936
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,625	5,814
現金及び現金同等物に係る換算差額	233	△89
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	279	729
現金及び現金同等物の期首残高	4,722	2,832
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,002	3,562

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 1 営業活動により得られた資金での返済により、有利子負債(リース債務除く)は前期末に比べ26億22百万円減少し、532億19百万円になりました。

POINT 2 売上高は原料相場の影響により減収となったものの、営業利益・経常利益・四半期純利益ともに、過去最高を更新しました。

TOPICS

社会貢献活動

パームオイル・トレードフェア&セミナーに参加 世界の不二製油をアピール

2009年5月18日、東京で開催されたマレーシアパーム油協議会・マレーシア貿易開発公社主催の「パームオイル・トレードフェア&セミナー」に不二製油が参加・出展しました。マレーシア政府関係者やパーム油関連企業なども含め約250名が出席する中、当社からは海老原善隆社長をはじめ10名が参加。席上、油脂加工食品カンパニーの木田晴康油脂開発部長が「菓子におけるパームオイル使用の利点」をテーマにプレゼンテーションを実施し、出展ブースでは、グローバルネットワーク紹介等のパネル展示や、パンフレット配布も行い、パーム油輸入日本一の不二製油を世界に向けてアピールしました。



木田晴康油脂開発部長によるプレゼンテーション

チョコレート洋菓子の本場ベルギーからオーナーパティシエを招き研究会開催

2009年8月6・7日、オーナーパティシエとショコラティエの方々を対象に、不二製油（油脂加工食品カンパニーが担当）主催で「チョコレート研究会」を開催しました。ベルギー在住の著名なオーナーパティシエを招き、フジサニープラザTOKYOで不二製油のチョコレートを 사용하여ご講演いただきました。今回紹介された新商品「パール・ショコラ」は、参加者から「すぐにでも商品化したい」「発想の幅が広がり商品開発する上で参考になった」と大いに反響を得ました。



活発に質疑応答が行われた講習会

第58回「外食産業フェア」に大豆冷凍食品を出展

2009年10月14・15日に東京で開催された第58回「外食産業フェア」に当社も出展。今回のテーマは「美味しさ、健康、一歩進んだ食の祭典」で、「大豆と野菜の蒸し寄せ」や「豆腐バーグ」「大豆つくね」などの冷凍食品を展示し、来場者へは調理例の紹介や試食も行いました。



大豆冷凍食品を中心に出品した不二製油のブース

不二製油グループは、社会の一員として責任を果たしていきたいと考えております。持続可能なパーム油のための活動などを通じて、食品企業として社会に貢献してまいります。

「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」への参画

当社グループでは、植物性油脂の原料としてパーム油を使用しています。そのため、2004年にいち早く、持続可能なパーム油産業の成長を可能とすることを目的に設立された国際的な非営利団体RSPOの正会員となりました。RSPOを通じて環境や地域社会に配慮したパーム油産業の運営に協力しています。

- ・正式名称 Roundtable on Sustainable Palm Oil (RSPO)
- ・設立年 2004年
- ・会員数 世界365団体(正会員271、準会員94 2009年5月)

大豆たん白質に関する研究を支援
＜財団法人 不二たん白質研究振興財団＞

1979年に「大豆たん白質栄養研究会」を設立し、1997年に「不二たん白質研究振興財団」（文部科学省所管）を発足させるなど、大豆たん白質と関連分野に関する研究振興を目的とした大学や研究機関への助成に取り組んでいます。最近では、大豆たん白質の摂取が「メタボリックシンドローム」を改善する働きを持つ「アデポネクチン」の分泌を促すとの研究結果を得ています。



第12回研究報告会(2009年)



財団法人不二たん白質研究振興財団

ボルネオ島の熱帯雨林再生・生態系保全活動を支援

当社は伊藤忠商事(株)が取り組んでいる、ボルネオ島の熱帯雨林再生および生態系保全の支援活動に参加しています。熱帯雨林は地表の3%程度の面積を占めているに過ぎませんが、生物種の70%もの動植物・昆虫が生息しているともいわれています。生物の多様性を次の世代に引き継ぎ、地球温暖化防止のためにも熱帯雨林の保全は重要です。当社は、WWF(世界自然保護基金)への寄付を通し、ボルネオ島北部に位置するマレーシア・サバ州北ウルセガマでの植林活動を支援しており、伊藤忠グループ社員によるボランティア植林体験ツアーへの参加も今後検討してまいります。



株式の状況

(平成21年9月30日現在)

発行可能株式総数	357,324,000株
発行済株式の総数	87,569,383株
株主数	16,141名
一人当たり平均所有株式数	5,425株

大株主

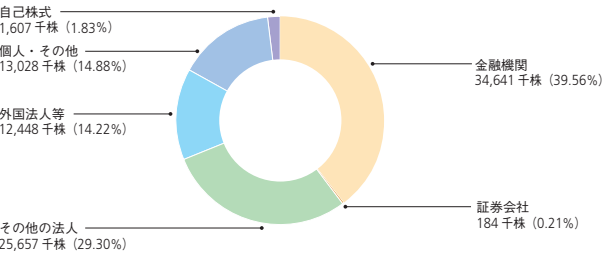
(平成21年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
伊藤忠商事株式会社	17,609	20.48
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,645	7.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,790	4.41
野村信託銀行株式会社(信託口)	3,127	3.64
日本生命保険相互会社	2,845	3.31
東京海上日動火災保険株式会社	2,828	3.29
株式会社三井住友銀行	1,875	2.18

出資比率は自己株式(1,607株)を控除して計算しております。

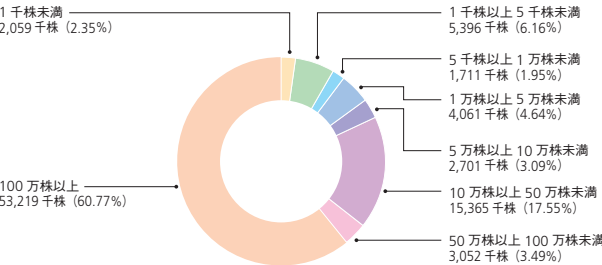
所有者別株式分布状況

(平成21年9月30日現在)



所有株数別株式分布状況

(平成21年9月30日現在)



会社概要

(平成21年9月30日現在)

創立	1950年(昭和25年)10月
資本金	13,208百万円
代表者名	代表取締役社長 海老原 善隆
連結売上高	102,347百万円
連結経常利益	7,479百万円
連結総資産	173,928百万円
単体売上高	61,928百万円
単体経常利益	4,777百万円
単体総資産	135,237百万円
全グループ従業員数	3,639名
不二製油従業員数	1,209名

役員

(平成21年9月30日現在)

代表取締役社長	海老原 善隆
代表取締役副社長	河部 博国
専務取締役	森 弘之
専務取締役	片山 務
専務取締役	寺嶋 正彦
常務取締役	岡本 和三
常務取締役	山中 敏正
常務取締役	岩朝 央茂
常務取締役	高木 茂進
常務取締役	寺西 史修
常務取締役	清水 洋
取締役	中村 修誠
取締役	小林 誠一
取締役	前田 裕也
取締役	内山 哲也
取締役	佐藤 浩雄
常勤監査役	南 廣次
常勤監査役	枅 井俊一
監査役	松本 耕一
監査役	竹内 壽一

主要海外グループ会社

(平成21年9月30日現在)

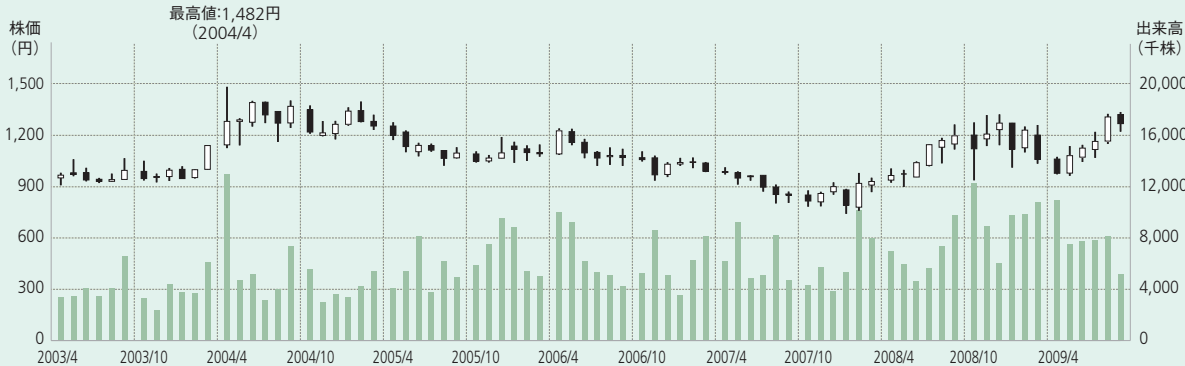
フジオイル (シンガポール)
ウッドランド サニーフーズ
フジ サニーフーズ
バルマジュ エディブル オイル
フジ ベジタブル オイル
ソヤファーム USA
フジオイル ヨーロッパ
ニューレイテ エディブル オイル
フレイアバディ インドタマ
不二製油 (張家港) 有限公司
吉林不二蛋白有限公司
山東龍藤不二食品有限公司
上海旭洋綠色食品有限公司
深圳旭洋綠色食品有限公司
天津不二蛋白有限公司
不二富吉 (北京) 科技有限公司

主要国内グループ会社

(平成21年9月30日現在)

トーラク 株式会社
フジフレッシュフーズ 株式会社
フジ プロテイン テクノロジー 株式会社
ケイ・ピー食品 株式会社
ワルツファンシー 株式会社
不二バター 株式会社
株式会社 フクシヨク
今川 株式会社
株式会社 エフアンドエフ
株式会社 阪南タンクターミナル
千葉ベグオイルタンクターミナル 株式会社
ソヤファーム 株式会社

株価の推移



株式のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京・大阪
証券コード	2607

株式に関する手続きについて

証券会社でお取引をされている株主様

お手続き お問い合わせ先	お取引のある証券会社
お手続き内容	住所・氏名等のご変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受領方法・振込先のご変更等
留意事項	未払配当金のお支払、郵送物の発送と返戻に関するご照会につきましては、株主名簿管理人である住友信託銀行株式会社 証券代行部が承ります。

特別口座に記録されている株主様

お手続き お問い合わせ先	住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈郵便物送付先〉	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
〈電話照会先〉	☎ 0120-176-417（平日9：00～17：00）
〈ホームページ〉	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
お手続き内容	特別口座から一般口座への振替請求、住所・氏名等のご変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受領方法・振込先のご変更、未払配当金のお支払、郵送物の発送と返戻に関するご照会等
特別口座での 留意事項	特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社に口座を開設したうえで株式の振替手続きが必要となります。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様のご所有株式は住友信託銀行株式会社に開設された口座(特別口座)に記録されております。

特別口座の詳細につきましては、上記住友信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。



FUJI OIL CO., LTD.

<http://www.fujioil.co.jp>